

西アフリカ・サヘル地域村落における農耕民および牧畜民の生業 と暮らし—リスク管理と女性の役割に注目して—

佐々木 夕子

キーワード：サヘル地域、農耕民、牧畜民、女性、生業、乾季小規模かんがい野菜栽培、ポテンシャル、
危機の年、リスク管理

1. はじめに

西アフリカ・サヘル地域はもともと半乾燥地で年間降雨量も不安定で200mm～400mmと少ない。この厳しい気候条件と不規則降雨により深刻な飢饉に陥りやすい地域でもある。加えて近年の人口増加により一人当たりの耕地面積が減少し、数十年にわたる連作は土地の肥沃度を著しく低下させ、さらに人口増加に追従する家畜増もそれに拍車をかけている。しかし、このような厳しい環境下でも地域住民はなんとか折り合いをつけてそれぞれの生業を営んでいる。この研究の目的は、こうしたサヘル地域の人々の暮らしに着目し、調査、考察を進めることにより地域にあるポテンシャルを発見し、それを地域の生活向上のオプションに取り入れ、さらなる生計の向上や安定を目指すものである。

2. ニジェール・サヘル地域の概要

ニジェールにおけるサヘル地域は北部限界耕作線と南部スーダン—サバンナ気候帯に挟まれた一帯を指す。気候条件は上述の通り非常に厳しく、そのため慢性的な食糧不足に悩まされている地域でもある。この地域の特徴は農耕民と牧畜民が混住していることであるが、近年は両者ともに規模の違いはあるものの農耕、牧畜両方を営んでいる。

3. サヘル地域村落の生業と暮らし

ニジェール・サヘル地域に位置する研究対象地ファカラの村落地域で農耕民、牧畜民、女性それぞれの生業や暮らしに焦点を当て、聞き取り調査の結果をもとに様々な角度から考察を加えていく。特に女性の役割に注目し時間的な余裕のある乾季に多くのポテンシャルを見出している。

4. 「危機の年」とその対処法

農耕民、牧畜民、女性のそれぞれの「危機の年」とその対処法について比較考察する。同じ地域に住みながら、その生業やリスク管理の違いにより「危機の年」が異なってくることは、「危機」に対するそれぞれの感受性の違いからも見て取ることができる。

5. 地域開発支援への小さな取組—乾季小規模かんがい野菜栽培を事例にして—

第3章でみた乾季の女性のポテンシャルを生かした取り組みとしてファカラ地域の小規模かんがい野菜栽培を事例に概観し、この活動が農耕民の一生業や「危機の年」にならないためのリスク回避の一オプションになり得ている点に注目し、新たな地域開発支援の進むべき道を提案している。